

直近の世論調査から見る政局 - その6

2008年9月30日 総合研究室

今回のポイント

麻生内閣発足直後の支持率...支持「予想より低く」、不支持「予想より高い」
 不支持率は、小淵内閣(自民単独・少数与党)に次いでワースト2
 自民党支持率のアップも平均で1.7%のみで、これも期待はずれだが「要警戒」
 ...民主党支持率も平均0.8%アップ
 世論の「政権交代への志向性」...投票動向では自民が「やや改善」。しかし政権は「民主中心」が優勢

1. 麻生内閣発足直後の支持率...支持「予想より低く」、不支持「予想より高い」(なお悪化の気配)。不支持率は、小淵内閣(自民単独・少数与党)に次いでワースト2

時事の世論調査結果がまだ出ていないが、麻生新内閣に対するマスコミ各社の世論調査結果がほぼ出そろった。この結果は「麻生で支持率回復」を願っていた自民党筋では、期待されたほどの数値が得られなかった。

麻生内閣発足直後の支持率

	支持	不支持
朝日9.26	48	36
毎日9.26	45	26
共同9.26	48.6	32.9
日経9.26	53	40
読売9.26	49.5	33.4
時事		
NHK9.29	48.0	40.0
ANN9.26	50.4	33.3
NNN9.26	46.7	37.8
FNN9.26	44.6	35.7
JNN9.29	51.1	47.5
報2001-9.28	47.2	43.2
AVG	48.4	36.9
MAX	53.0	47.5
MIN	44.6	26.0

左表のように、9月24日に発足した麻生内閣に対する支持率の平均値は48.4%、これに対して不支持が36.9%という結果になった。

それも「5日大臣」と揶揄された中山国土交通相の辞任(9.28)で、さらに悪化しかねない気配がある。内閣発足直後(9.26)に報道されたマスコミ調査に比べて、中山発言問題(成田「ごね得」、日教組批判、単一民族)が顕在化してからの世論調査が被っていると見られる報道2001(9.28)の不支持率が43.2%、JNN(9.29)の不支持率は47.5%にまで高くなってきているからだ。NHKでさえ支持48%・不支持40%と接近している。

「時間が経つほどボロが見えてくる」「だから早いうちに解散を」という声が後押しされそう。しかし「解散もできないままズルズル行ってしまうのでは?」という声にも説得力がある。麻生首相は、「野党の代表質問のようだ」と言われた所信表明演説(9.29)のように、一国の宰相としての自覚をすでに見

失って立ち往生してしまっている。明日からの代表質問に俄然、関心が高まっている。

1993年の政変以降の歴代内閣の支持率(支持/不支持)を見たのが次の表だ(ただし4社平均だが)。支持率は4社平均のため、上の数値とは少し違う。

歴代内閣発足直後の支持率(支持/不支持)					
	共同	朝日	読売	毎日	4社平均
細川93.08	75.7/12.7	71/12	71.9/13.2	75/9	73.4/11.7
羽田94.04	51.6/31.3	47/32	56.8/25.0	43/23	49.6/27.8
村山94.06	33.2/52.1	35/43	37.0/44.0	40/31	36.3/42.5
橋本96.01	63.0/29.2	61/20	56.9/25.6	59/16	60.0/22.7
小淵98.07	31.9/59.3	32/47	33.1/52.0	25/48	30.5/51.6
森 00.04	42.9/25.4	41/26	41.9/36.1	40/24	41.5/27.9
小泉01.04	86.3/6.0	78/8	87.1/6.1	85/5	84.1/6.3
安倍06.09	65.0/16.2	63/18	70.3/14.2	67/16	66.3/16.1
福田07.09	57.8/25.6	53/27	57.5/27.3	57/25	56.3/26.2
麻生08.09	48.6/32.9	48/36	49.5/33.4	45/26	47.8/32.1

自社さの村山内閣(94年6月)と、自民党単独(少数与党)内閣の小淵内閣(98年7月)は、支持率よりも不支持率の方が高いという異常な政権としてスタートした。麻生内閣は、この二つの内閣を除けば、支持率では森

内閣(41.5%)よりは良い47.8%だが、不支持率は32.1%という数値になっている。発足直後で不支持率が高いのは、小淵内閣(51.6%)、村山内閣(42.5%)だが、麻生内閣は森内閣の27.9%よりも高い。自民党政権としては、もともと少数派政権としてスタートせざるを得なかった小淵内閣に次ぐワースト2である。拒否反応の強い政権だということが言える。

2. 自民党支持率のアップも平均1.7%程度で、これも期待はずれだが「やや回復気運」も。...民主党支持率も平均0.8%アップ

麻生内閣の発足により、自民党支持率の回復も期待されていたようだが、これも「効果がなかった」というわけではないが、期待はずれに終わった感がある。

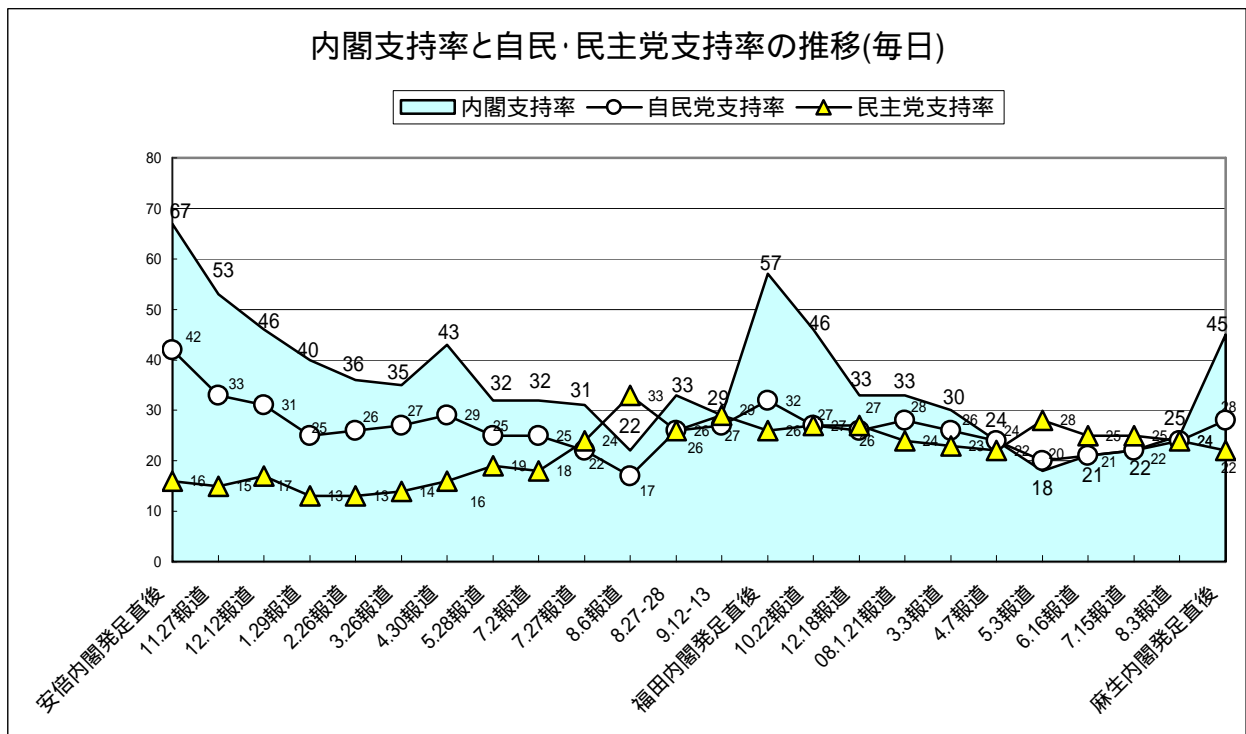
麻生内閣発足による自民・民主支持率の変化

	自民党支持率			民主党支持率		
	発足前	発足後	差a	発足前	発足後	差b
朝日9.26	29.0	34.0	5.0	19.0	23.0	4.0
毎日9.26	33.0	28.0	-5.0	22.0	22.0	0.0
共同9.26	36.8	37.0	0.2	27.0	28.3	1.3
日経9.26	37.0	41.0	4.0	30.0	31.0	1.0
読売9.26	43.4	37.4	-6.0	26.3	22.8	-3.5
NHK9.29	33.8	37.3	3.5	18.4	21.0	2.6
ANN9.26	42.9	45.2	2.3	25.9	28.3	2.4
NNN9.26	35.3	36.5	1.2	22.5	25.6	3.1
FNN9.26	29.1	31.7	2.6	23.8	25.9	2.1
JNN9.29	29.6	36.3	6.7	26.1	23.1	-3.0
報2001-9.28	24.2	28.4	4.2	29.0	27.6	-1.4
AVG	34.0	35.7	1.7	24.5	25.3	0.8
MAX	43.4	45.2		30.0	31.0	
MIN	24.2	28.0		18.4	21.0	

毎日と、何と！読売の調査で、自民党の支持率が下がっている。各社平均して見れば、わずか1.7%程度の効果しかなかった。

振り返って見れば、福田内閣改造の時(8.1)は、改造効果で約6%アップ、皮肉なことに福田首相の「政権投げだし」でも3%アップしたのだが、麻生新内閣の発足では2%にも満たない効果しかなかったことになる。あれほど、自民党総裁選挙が、さながら総選挙の事前活動だと批判されながら、テレビショーを演出してきたのに...という思いだろう。

しかし、低迷を続けてきた自民



党の支持率が、福田首相による内閣改造(8.1)、政権投げだし(9.1)、そして麻生新内

閣(9.24)という、自民党のマキャベリックな政党浮揚のための術策によつて、少しずつ自民党支持率の回復が得られてきていることは「要警戒」だ。

マスコミ宣伝で、民主党の支持率が、煽りを受けて下がるのではないかとする見方もあったが、読売、JNN、報道2001でやや低下したものの、これも平均してみると0.8%のアップになっている。民主党や支持層にある「浮かれ気分」を直すには、ちょうど良い数値だ。

テレビ系世論調査はなじみが少ないので...ANN(報道ステーションなど)、NNN(日テレ系)、JNN(TBS、ニュース23など)、FNN(フジ・産経グループ)、報2001(報道2001)

3. 世論の「政権交代への志向性」...投票動向では自民が「やや改善」。しかし政権は「民主中心」が優勢

次の表は、「政権交代への志向性」の動向を見ようとしたものだが、今回は「次の衆院選挙での比例投票先」では、読売は「自民へ」「民主へ」ともに下げている。朝日は5月以降は「民主へ」が優位に立っていたが、今回は「自民へ」がやや回復した。「民主へ」は前回と変わらない。共同は「自民へ」がやや下がって、「民主へ」とほぼ同じ数値になった。日経とFNNが今回初めて登場したが、日経は「自民へ」がやや優位、FNNは「民主へ」がやや優位。

世論の政権交代への志向性					
読売	仮に衆院選で投票・比例		共同	政権は	
	自民へ	民主へ		自民中心	民主中心
4.3報道	26.4	28.9	1.13報道	35.0	41.5
5.20報道	27.6	26.2	2.11報道	36.0	40.2
6.17報道	25.1	27.5	3.17報道	38.5	37.3
7.15報道	25.6	26.9	4.6報道	32.9	39.8
8.3報道	30.8	34.2	5.3報道	26.7	50.0
8.12報道	31.3	25.1	6.14報道	35.1	40.4
9.12報道	39.3	33.1	7.13報道	31.2	45.3
9.26報道	37.0	29.5	8.3報道	34.8	48.2
朝日			9.4報道	43.3	41.7
5.2報道	22	39	9.26報道	38.1	43.8
5.20報道	23	39	朝日		
6.17報道	23	36	9.4報道	32	41
8.3報道	25	32	9.26報道	39	40
9.2報道	27	31	読売		
9.4報道	28	32	8.12報道	43.2	35.1
9.26報道	36	32	9.12報道	50.9	35.6
共同			9.26報道	46.9	35.6
9.4報道	38.4	34.9	ANN		
9.26報道	34.9	34.8	9.8報道	36	41
日経			9.26報道	45	37
9.26報道	36	33	FNN		
JNN			9.26報道	24.1	32.1
9.8報道	30	37			
FNN			毎日	勝ってほしい政党	
9.26報道	36	39.3		自民	民主
			3.3報道	34	44
			4.7報道	36	40
			5.3報道	24	51
			6.16報道	25	46
			8.3報道	31	46
			9.26報道	41	37
			JNN		
			9.8報道	42	52
			NNN		
			9.7報道	35.7	43.7
			9.26報道	37.8	44.3
			FNN		
			9.26報道	40.7	48.5

「勝ってほしい政党」でも、毎日民主が自民を上回ってきたが、今回は逆転して、自民が優位になった。しかしNNNとFNNは、いずれも民主が自民を上回っている。

とを合わせた投票動向を見ると、麻生内閣発足によって微妙に変化し、「やや改善」していることは認めざるを得ない。ここも「要警戒」だ。

しかし、「政権は自民中心か民主中心か」という設問では、共同も朝日も、「民主党中心の政権」を望む声が「自民党中心の政権」に対して優位に立っている。

ただしANNとFNNの調査は、方向性が違う。

総じて判断すると、先にも述べたように、福田首相による内閣改造(8.1)、政権投げだし(9.1)、そして麻生新内閣

(9.24)という、自民党のマキャベリックな政権・政党浮揚のための術策によって、少しずつ離れていた保守層の取り込みが進み、やや回復気運も得られてきていると考えられる。

しかし世論の多くは、自民党政権に飽きが来ているので、まだ「今度は民主党に」というベクトルは残っているということだと理解する。

民主党も安倍・福田そして麻生内閣の失策などに頼らず、またマスコミの「民主・有利」報道に惑わされず、自ら政権獲得に乗り出すための行動が必要だ。解散・総選挙では、無党派層が大挙して投票行動に参加してくる。今回も、この層が、最終的には勝敗に影響を与えそうだ。

【参考】9.30 北海道新聞世論調査について

9月30日、北海道新聞が世論調査を発表した。今回は、要点の紹介だけにしておく。その内容は、

麻生内閣への支持率は41%。不支持が37%と接近している。福田内閣発足直後の支持率44%には届かなかった(ほぼ全国的傾向と同じ)。

政党支持率は、自民党が復調を見せて31%(前回16%と異常な数値だった)。民主党は24%で前回比で7%減。これでむしろ体力的には正常な関係となったと考えておいた方がよい。

次期衆院選での投票先は、自民 - 選挙区33%、比例35%。民主 - 選挙区39%、比例37%。民主に対する期待が大きい。

政権の枠組みでも、「民主中心」が47%で、「自民中心」の40%をリードしている。

分析は別の機会に行うこととして、政党支持率の推移グラフのみ掲載する。

